

## 平成 29 年度 第 1 回学校評議員会報告

I 開催日時 平成 29 年 6 月 2 日（金） 13：30～16：00

### II 内 容

- ・授業参観（13：30～14：00）
- ・学校評議員委嘱

#### 1 学校概要説明

##### ○質問

〈A氏〉 Q：交流籍を活用した交流・共同学習についてどんな交流をしているのか？

A：通常学級あるいは特別支援学級で、主に行事・調理活動・遠足等の活動を伴うものと音楽・パソコン学習などの教科学習で交流を行っているが、どちらかという活動に伴うものが多い。

〈A氏〉 Q：寄宿舎利用者の障がい程度などに数年間の変化はあるか？

A：特に大きな変化はない。

〈B氏〉 Q：働きやすい職場作りについて、ノーPCデーは何を目的にしているか？

A：特にも知的障害学校の職員は空き時間がない。教師本来の業務は子供と関わるのが大切。その中で月 2 回日にちを決めて、できる限り意識的に使わないようにして、学部・学年・他学部の職員と話をする時間を作って情報共有を図り、連携を深めていくことをみんなで確認して年間取り組んでいく。PC で教育情報を学べる長所はあるが、職員室にはたくさんの職員がいる。挨拶や会話・指導の仕方などの PC で学ぶ以外の情報を共有し、教師としての成長が図れるように願っている。

〈A氏〉 Q：学校評価アンケートの評価はどうしているか？

A：アンケート用紙に記入してもらい、副校長が集計している。アンケートを実施してみると本校の職員の自己評価が低い。もっと自分たちのやっていることに自信をもってもらいたい。そのことが子供たちの自己評価の向上にも繋がるのではないかと考えている。

〈D氏〉 Q：社会人として見た時、自立支援が目標だと思うが、その先をどう捉えているのか？手助けする人がいない中で自前でやる、それを踏まえて指導してほしい。

A：高等部の教育課程で、週30時間の内、「作業学習」に12時間、「進路学習」に4時間取り組んでいる。

支援をしなくてもいかに働いてくれるかという評価が大事。卒業後も親御さんたちも安心だと思っている。

本校の児童生徒の3割が重度障がい者。卒業後の支援も必要な状況である。一方で、高等部入学生の半分以上が中学校までは地域で生活できている。入学に際しては特別な支援が必要な子どもたちが入る学校でなければ、社会に出るまでの3年間は過ごせないかどうかを考えながら教育相談に対応している。ただ、中学校の担当者や保護者の考えと本校の考えが一致しにくいところもあり難しさを感じている。その点は継続して中学校と話し合っていかなければならないと思っている、教育相談を丁寧にしていくこと、近隣の高校のサポートをしていくことで、共に生きていける子供たちが増えていくように考えていくことが必要。

主たる障がいは知的障がいだが、12年間の教育の中で、どこまで負荷に耐えられる子を育てられるか、障害に関わらず一人ひとりと向き合い、特性に合わせながら人生を歩める力を身につけさせたい。その気持ちを大事にしながら子供や保護者と関わりたい。

〈D氏〉 障害の程度はあっても社会に出てから適応する子がいる。そういうことに気づくことが大切。気づいたときに社会に戻せる仕組みがあると良い。

〈C氏〉 先生方の多忙感について、新しいものが入っても、従来と変わらないままでやるべきことが増える一方では、多忙感、健康面が心配。

幼保、学校は支援学校の支援を期待している。毎年いろいろな子が入ってきている中で、期待度は大きい。支援をよろしく願いたい。

〈C氏〉 Q：地域交流のチーフは何故過去の経験者以外か？

地域交流に、以前在籍していた児童が県外に転居している場合、前沢に帰った時に参加できるか？

進路先一覧で、卒後在宅1名は何故か、どう過ごしている？  
A：同じ人だけではなく、みんなでその地区の経験していくため。  
A：経費の問題はあるが、帰省等の情報を伝えていただければ、  
学校で検討して対応したい。  
A：卒業が大きな目標だった。保護者、本人は親戚等の支援を受けながら自立に向けて過ごしている。

## 2 協議・助言

### ○校外学習について

〈B氏〉先生だけではなく、その道の専門家の話を伺いながら進めてもらうのも良い。

### ○就業体験について

〈B氏〉商工会議所・企業団体にも情報を伝えながら、学校と情報共有して進める。そのことで、理解・受け入れ企業の範囲が進むのではないか。

〈学校〉個々の実習先の相談については、前沢の商工会にも伝えて、学校と企業との連携協議会を立ち上げている。その会長を商工会の事務局長にお願いして実習の受け入れ先や就労先の開拓を商工会をとおして話を進めたり、工業クラブ・経済団体にも話を伝えたりして開拓を少しずつ進めている。

〈B氏〉商工会としても、まだ理解が進んでいない。一堂に会して説明会を開く、ディスカッションする場を設けるなどすると理解が高まるのではないか。

企業側も受け入れたいが、経営を考えると難しいところもある。不安感を払しょくするためにも商工会に話をしてほしい。また、依頼があれば、商工会の中でも伝えていきたい。

〈D氏〉（補足）この仕事なら、この生徒に当てはまるだろうという視点で学校側も見てほしい。そこを企業に伝えること、売り込むという視点が大切。

### ○進路支援について

〈A氏〉県南地区の福祉サービスも増えているようだが、まだ、足りない状況でもある。その中で法人内の連携によって施設移行、グループホームへの移行、就労移行を積極的に進めることとしている。石鳥谷・花巻・北上と障害者就業・生活支援センターを含め、事業所があるが、それぞれの施設の連携が弱かったので、連携を強

化して、就労にしても施設移行にしても情報を流して取り組みを進めている。法人として今後も役に立ちたいと考えているので相談等あればお願いしたい。

進路では、学校と担任懇など情報交換を行っているが、職員の転勤などで入れ替わりもあり、内部的にも引継ぎの質を高め、学校と綿密に連携していきたい。これからもよろしくお願いしたい。

〈質問〉学校内で学部が変わった時、引継ぎは何か特別なものがあるか？

A：小 - 中 - 高と引継ぎの日を設定して一人ひとりの情報を引きついでいるほか、それ以外でも関わっていた職員がいるので必要があれば随時情報交換をしている。

○学校行こう週間について

〈C氏〉廊下から授業を見なければならぬか。

A：生徒の特性や状況によっては、教室の外から見てもらうこともある。入口に張り紙等でお知らせをしているので確認していただきたい。

学校へ行こう週間は9時から12時までの午前中である。